

殺虫殺菌剤

アレスモンガレス箱粒剤
オキサゾスルフィル・インピルフルキサム粒剤

令和4年11月9日付けで以下の適用拡大が登録されました。

【変更内容】

- ・作物名「稲」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」の使用時期「は種時（覆土前）～移植当日」に適用病害虫名「イネヒメハモグリバエ」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」に使用時期「は種前」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」の使用時期「は種時（覆土前）～移植当日」に使用量「高密度には種する場合は1kg/10a（育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当り50～100g）」を追加する。
- ・作物名「稲（箱育苗）」に適用病害虫名「イネカラバエ」、使用時期「移植当日」を追加する。

【変更後】

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	オキサゾスルフィルを含む農薬の総使用回数	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
稲	紋枯病 イネヒメハモグリバエ イネカラバエ ツマグロヨコバイ コメテウ	1kg/10a	移植時	1回	側条施用	1回	1回
稲 (箱育苗)	紋枯病 イネヒメハモグリバエ イネカラバエ ツマグロヨコバイ コメテウ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前		育苗箱の 床土または 覆土に均一に 混和する。		
	イネヒメハモグリバエ	高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)			育苗箱の 覆土に均一に 混和する。		
		育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50g	は種前				
		高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)					

次頁へ続く

前頁より続く

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	杆サバ スルフィルを含む農薬の総使用回数	イピ ルルキチムを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	紋枯病 竹ゴ 類 ウカ類 イヅムシ イト オイムシ イヒカモガ リバ イ イネミス ゴウムシ コブ ノメカ ツマゲ ロコバイ ニカメチユウ フオヒ コヤカ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	は種時 (覆土前) ～移植当日	1回	育苗箱の 上から均一に 散布する。	1回	1回
		高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)					
	イカバ イ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り 50g	移植当日		育苗箱の 上から均一に 散布する。		
		高密度に は種する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5L) 1箱当り50～100g)					

使用上の注意事項の変更

【追加事項】

- ・本剤を床土または覆土に混和する場合、処理後速やかに使用すること。また、本剤を処理した床土または覆土を放置しないこと。
- ・育苗箱（30×60×3cm、使用土壌約5L）1箱当りに乾糶として200から300g程度を高密度には種する場合は、10a当りの育苗箱数に応じて、本剤の使用量が1kg/10aまでとなるよう、育苗箱1箱当りの薬量を50から100gまでの範囲で調整すること。
- ・側条施用する場合は、粒剤が均一に散布できる施用装置を装着した田植機を使用すること。
- ・水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しないこと。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないこと。

使用上の注意事項などについては、製品に貼付されているラベルを参照のこと。

住友化学株式会社